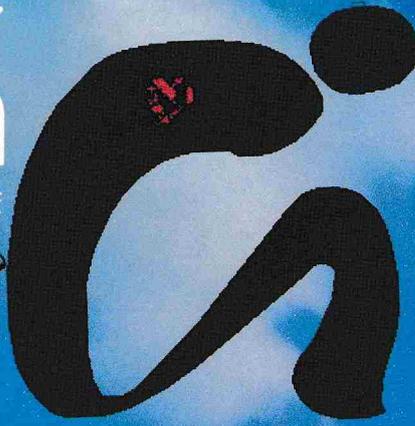


1994/10 No.17

oaca

社団法人 日本建築美術工芸協会



## CONTENTS

---

「中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟」の 保存改修について……………	1
「中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟」の 復原・改修工事に当たって……………	3
赤レンガ棟保存改修工事竣工に当たって ……………	4
京都建都1200年によせて……………	6
時代の華一輪	
吉田イサム……………	8
本間利雄……………	9
アピアランス(会員作品紹介)……………	10
AACAトーク	
坂上直哉……………	11
伊部京子……………	12
TOPICS……………	14

■表紙写真：三輪晃久写真研究所

# 「中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟」の保存改修について



東京大学名誉教授  
TEIJIRO MURAMATSU  
村松 貞次郎  
〒263 千葉市稲毛区黒砂3-4-9  
TEL. 043-241-8621

「中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟」と、いかにもお役所らしい無粋な名を冠されたが、もとの法務省（旧司法省）本館。霞が関にただ一つ残った明治の赤レンガ。その華麗な容姿は女王と呼ぶにふさわしい。明治28年の竣工だから99歳、白寿の女王である。

その老女が保存改修工事を終えて平成6年8月1日建設省から法務省に引き渡され、国会議事堂・最高裁判所と並ぶ三権を代表する建物としてライトアップもされるようになった。

## 霞が関の女王の経歴

この旧司法省の建築は明治の官庁集中計画で実現した裁判所・海軍省・司法省

の三建築のうち唯一生き残ったものである。

明治19年、政府は不平等条約の改正と国会開設を射程において近代国家の体面を整えようと、日比谷を中心とする壮大なスケールの官庁集中計画を構想して、それを実施する内閣直属の臨時建築局を設置、井上馨が総裁に就任した。その都市計画と主要官庁建築の設計はベルリンのエンデ及びベックマンの共同建築事務所

に任された。実現すればオースマンのパリ大改造計画にも匹敵する大計画だったが、やはり国力が伴わなかった。条約の改正も失敗し、責を負った井上は外相とともに臨時建築局総裁も辞任し、局そのものも明治

23年には廃止されてしまった。ベックマンの勧告によってドイツに派遣されていた日本人建築技師や職工たちも呼び帰され、エンデ・ベックマン事務所との契約も明治21年に解約された。西欧化・近代化にはやっていた明治政府の果なくも壮大な夢だった。

しかし、前記3建築のうち裁判所と司法省だけは、エンデ・ベックマン事務所の設計で建てられることになり、裁判所を妻木頼黄、司法省を河合浩蔵が、その実施設計と現場監理を担当した。ともに臨時建築局からドイツへ派遣された技師で、ドイツの建築様式や技術導入の契機となった。

なお臨時建築局は廃局後、内務省土木



写真提供：三輪晃久写真研究所

局で僅かに余命を保っていたが、明治36年大蔵大臣官房建築課として復活、妻木頼黄のもとで官庁営繕の源流を形成するようになった。したがって、唯一つ残ったこの旧司法省の建築は、今日の建設省営繕からすれば、かけがえのない先祖の遺作。本家本元の貴重なモニュメントで、赤レンガの最高裁が昭和49年に保存の声もなく取りされた後を承けて、何としても保存改修に頑張らねばならなかったのである。

この建物は明治21年着工、同28年12月に完成した。鉄材で補強されたレンガ造3階建てで、建築面積約3,400㎡、様式はドイツ・ネオルネッサンスに北方系のネオバロックが加味されたもの。E型の平面を持ち、正面向かって左（濠側）の翼部が司法大臣官邸、右が事務部門、中央部が会議室という今日ではめずらしい職住一致の役所建築で、そのため玄関車寄せが左右に付いている。初代の司法大臣は長洲出身の陸軍中将・山田顕義、当初工費は裁判所の120万円に対して40万円というきびしさで、河合浩蔵を苦しめた。工事途中の明治24年に濃尾大地震があった。河合は同じ工部大学校明治15年（第4回）卒の機械工学者井口在屋と現地を視察、鉄材の補充その他の耐震措置をとった。今回の工事でもその涙ぐましいほどの努力の痕を見ることができた。これによってか、この建物は関東大震災によく耐えた。

だが、昭和20年3月の空襲によって、この建物は屋根と内部を完全に焼失した。昭和23年から復旧工事が行われたが、東京駅と同じようにそれはあくまで仮の姿だった（この点、今回の保存改修工事は、東京駅修復のよき先例になろう）。

政府はこの建物の保存再利用を考え昭和57年度から再度にわたって構造耐力の調査と保存活用の予備調査を行い、再利用のめどをつけ、平成3年11月から保存改修に着手、平成6年7月に竣工し、霞が関の赤レンガの女王は昔日の容姿をとり戻した。設計は建設大臣官房官庁営繕

部建築課、施工は大成建設を幹事とする共同企業体。私は保存活用予備調査委員会の委員長を勤めたためか、設計監修の役を負わされた。エンデ・ベックマンの研究で著名な昭和女子大の堀内正昭助教授も同じ立場で私を助けて下さった。

### 保存・復原・改修に対する私の考え

復原改修では、外観を可能な限り忠実に当初に復原した。僅かに残された図面、写真に拠りながらも、それらで確定できぬところはエンデ・ベックマンの作風や河合浩蔵の作品を参考にした。だが、当時さしも強大を誇ったエンデ・ベックマン事務所の作品も、二度の大戦の戦禍によって現存するものは殆んどなく、河合の作品も明治37年の神戸地裁があったが、これも戦災を受けてファサードだけの復原という心細いものだった。

外観の復原でとくに苦労したのは天然スレートの葺き方。図面はない。写真では屋根が白くとんでいて葺き方を識別することは不可能だった。厄介なことにエンデ・ベックマンのスレート葺きは、同じ屋根面でも棟から軒へ縞状に葺き方を変え、ときにはピンク色のスレートも混えようという複雑さ。結局これも決断以外になかった。見切り発車である。鱗（うろこ）葺き、菱葺き、一文字葺きを混用した。心底には“あれが鱗、その下が一文字”などと学生の教材に、という不逞な教師根性がなかったとは言い切れない。いかめしい官庁街にピンクのスレートも、と真面目に考えたこともある。

改修工事の要は、現存するレンガ躯体を構造体としてそのまま利用し、2階・3階および小屋裏にR.C.スラブを新設して構造補強をした。そのため文化財指定を受けない保存建築として初のレンガ造の構造評定を受けることができた。

復原は先にもふれたように外観を主とし、屋根や尖塔を鉄骨造で復原し、撤去されていた軒蛇腹と外壁の一部もレンガとPC擬石で復原した。またバルコニーの列柱（今回は中国産花崗岩を韓国で加

工）や外部建具も創建時に復した。内部は全体として近代的な仕上げで法務総合研修所および法務図書館としての新しい用途に合うようにしたが、3階の旧司法大臣官邸の大食堂だけは、創建時の荘重なインテリアに完全復原することにした。もっともこれは、ただ一枚の白黒写真だけが頼り。この工事は来年6月完成予定。

屋上の棟飾りや尖塔の複雑な曲面や飾り金具など、まともな図面や写真がない限り、どうしても推定し決断しなければならなかった。保存・復原・と言っても、これは創造だということを改めて痛感した。大食堂に至ってはその極限で、たとえば、ぼんやりした白黒写真1枚をたよりに、内装材の樹種を議論した。思いあまって、円高を利用して旧東ドイツ辺りから設計事務所と輩下の職人たちを買ってきたらどうか。エンデ・ベックマンへの返礼にもなる、などと口走ったこともある。

また、とくに私が注意した点は、外観レンガ壁体などを、やたらにきれいに洗い立てぬことだった。老人には老人の貌こそふさわしい。妙齢の美女になったら化け物だ、と考えたからである。

将来のメンテナンスを考えて、小屋は木造を鉄骨に、棟飾りはアルミ鋳物に、などと新しい材料と構造に変更した。その限界が問題で、復原は限りなくコピーに接近する。どこで踏みとどまるかが、創造の創造たるゆえん。石頭の原則論は通用しない。外部窓建具を木造からアルミに替えた辺りがその限界かな、と考えている。

褒められる点があれば建設省営繕の設計者たちと、それに協力した業者のお手柄、叱られるところがあれば、すべて私の責任と、今は開き直っている。



建設省官庁営繕部監督課長  
MASAYA SEGAWA  
瀬川 昌弥  
東京都千代田区霞が関2-1-3  
TEL.03-3560-4311 (代表)

## 「中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟」の復原・改修工事に当たって

### はじめに

8月1日、ドイツ建築独特の重厚さと、外壁の赤レンガの美しさから「霞が関の女王」とも言われた赤レンガ棟の引渡しが建設省から法務省に行われた。約3年半の工事が無事終了し、引き渡されたことに或る種の感慨を覚えるのを禁ずることができなかった。

新築された建物の引き渡しには感じられない特別な感慨を覚えたのは、工事の難しさの他に次のような歴史的事情も大きく影響しているものと思う。

### 創建時の経緯

この赤レンガ棟は旧司法省の建物として、明治21年10月に完成した、霞が関の官庁建築としては最も古い建物である。この設計者はベルリンに事務所を構え、鉄血宰相ビスマルクの建築顧問であったヘルマンエンデとウィルヘルムベックマンである。この二人は当時の外務大臣であり臨時建築局の総裁でもあった井上馨に招聘され、中央官衙集中計画の立案と、国会議事堂、司法省並びに東京裁判所（大審院）の設計を行っている。

この当時は、列強諸国と呼ばれた不平等条約改正の動きが盛んとなり、この交渉を後押しする意味でも日本の近代化が急がれ、その象徴として建物の洋風化が求められていた。

このトップバッターとして赤レンガ棟は、皇居の正門であった桜田門の脇に建設され、これに隣接して東京裁判所が翌29年に完成している。

これらの建物は工事中に濃美地震が発生しそれ以前に建

築されたレンガ造の建物が大きな被害を受けたことを教訓として、色々と鉄骨で補強したことが記録として残されている。この故もあって、大正12年9月の関東大地震においても殆ど被害を受けなかったが、昭和20年3月の東京大空襲によってレンガ壁と一部の耐火床を除き、全焼してしまった。その後、昭和23年から25年にかけて、資材の乏しい中、復旧工事が行われたが、ドイツネオバロック様式を象徴する屋根も大巾に形状が変わり、バルコニーの円柱も取り払われるなど創建当時とは程遠いものとなってしまった。しかし、最高裁判所の移転に伴い、旧大審院も取り壊され、霞が関における明治期の唯一のものとなっていた。

### 保存の動き

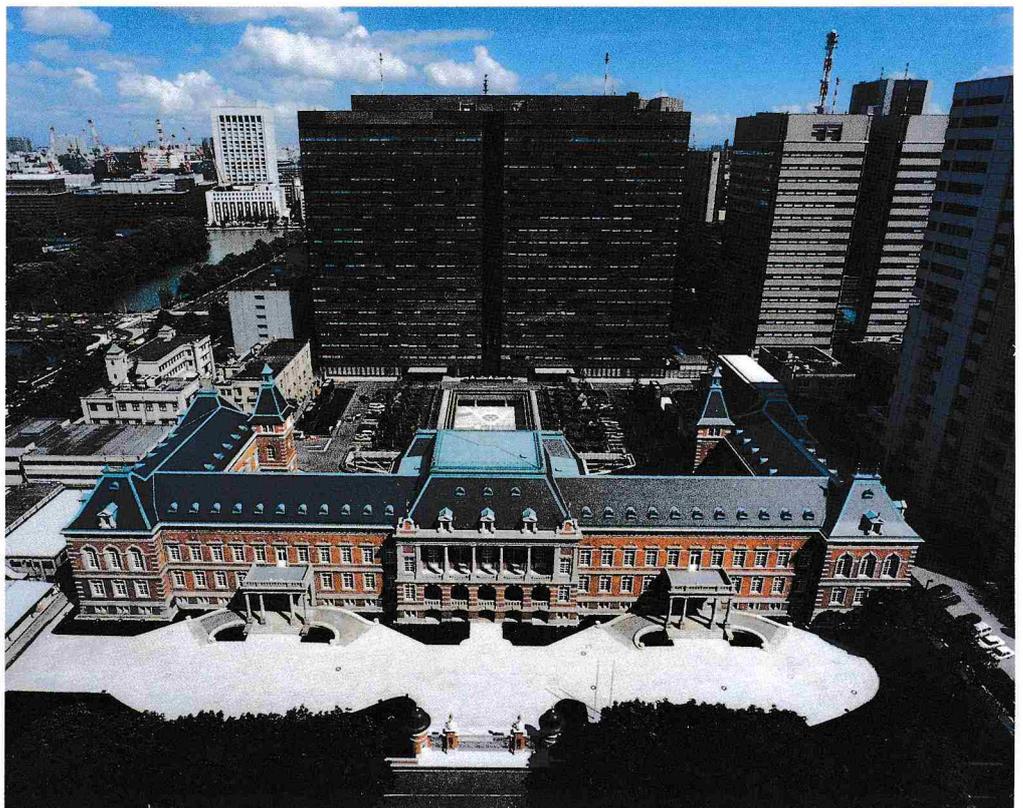
昭和51年、建築審議会において「中央官衙（霞が関団地）整備計画の基本方針」が答申され、その中において既存施

設の存廃については機能的利用価値のみならず、文化的価値を含めて慎重な検討を行うこととされた。これを受けて、昭和57年、梅村魁・東大名誉教授を委員長とした現状調査に始まり、昭和62年村松貞次郎・東大名誉教授（現（財）博物館明治村館長）他学識経験者による保存改修予備調査、本調査と引き継がれた。

### 復原・改修工事の内容

今回の改修工事は①外観については極力創建時の姿に戻す。②内部は、新たに入居する法務総合研究所並びに法務図書館の機能が十分果たせるよう、構造的にも機能的にも配慮したものとするよう行われた。

しかし、創建時の資料も殆んど焼失してしまい、数枚の写真やスケッチ程度の図面を元に、手探りの状態での工事であった。この為同時代の建物を参考としたり、以前の工事関係者を訪ねたりの繰り



写真提供：三輪晃久写真研究所



大成建設㈱ 所長（中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟保存改修工事）  
MASAKI INOUE  
**井上 正樹**  
東京都新宿区西新宿1-25-1（新宿センタービル）  
TEL.03-3348-1111（代表）

返しであった。それでも結局判らない部分については想定で復原している。

### おわりに

赤レンガ棟は竣工して約100年、その後50年で東京大空襲に遭遇している。この建物は不思議に50年毎に蘇えるようである。その時々において、改修して使用するのか、解体してしまうのか、熱い議論があったであろうことは想像に難くない。これら乗り越える力は、創建時の技術者のエネルギーがまだ残っていて私達に訴えかけるからに違いないと思う。今回の改修では、創建時並びに昭和の復旧時の技術者の努力を極力残すという平成の技術者のエネルギーも注ぎ込まれたと思う。

この赤レンガ棟が未永く、霞が関の歴史を語り伝えてくれることに期待したい。

## 赤レンガ棟保存改修工事竣工に当たって

### はじめに

今から3年半前「今度の工事はレンガ造の復原改修という大変難しい工事を担当してもらおう」と、上司から言われた時は、神が私に与えた人生の試練と感じました。明治建築、レンガ造、エンゼルベックマン等に興味を持ち、様々な文献に触れ、新たな感動を感じました。当社の礎を築いた大先輩の方々が昭和に改修した建物を平成の改修で引継ぐという身に余る思いと、責任の重大さに身震いを覚えました。

### 調査工事

先ずこれまでの保存改修事例の文献収集と、現場見学をしました。「明治建築の窓は木製建具で、同一の窓でも微妙に寸法が違うので、実測調査が大事だよ」

と言われた事を強烈に覚えています。なぜだろう？ 外壁と石を積んで1ヶ所ずつ寸法を当て製作したからなんだ。

レンガ壁の実測調査をしてみると、通り芯という考え方でなく、レンガの壁厚と内法寸法で構成されている事が分かりました。基礎地中梁の形は分かっているが、寸法が不明なので、外側に深礎を掘り、コア抜きして巾と材質が判明しました。屋根裏部屋に初めて上った時、ポルトレンガ床の上にしのび足で恐る恐る歩いた事を思い出します。その後載荷試験したら、通常のRC床と同程度の強度があるのに驚かされました。内部の構造体レンガは漆喰モルタル目地で積まれ、外壁の表面には中空の化粧レンガをセメントの効いた目地で積まれていました。漆喰目地は爪で傷が付く位弱く、本当に大丈夫か肌で不安を感じ建設省と相談の上、岡田恒男・東京大学教授を座長とす



写真提供：三輪晃久写真研究所

# 京都建都1200年によせて

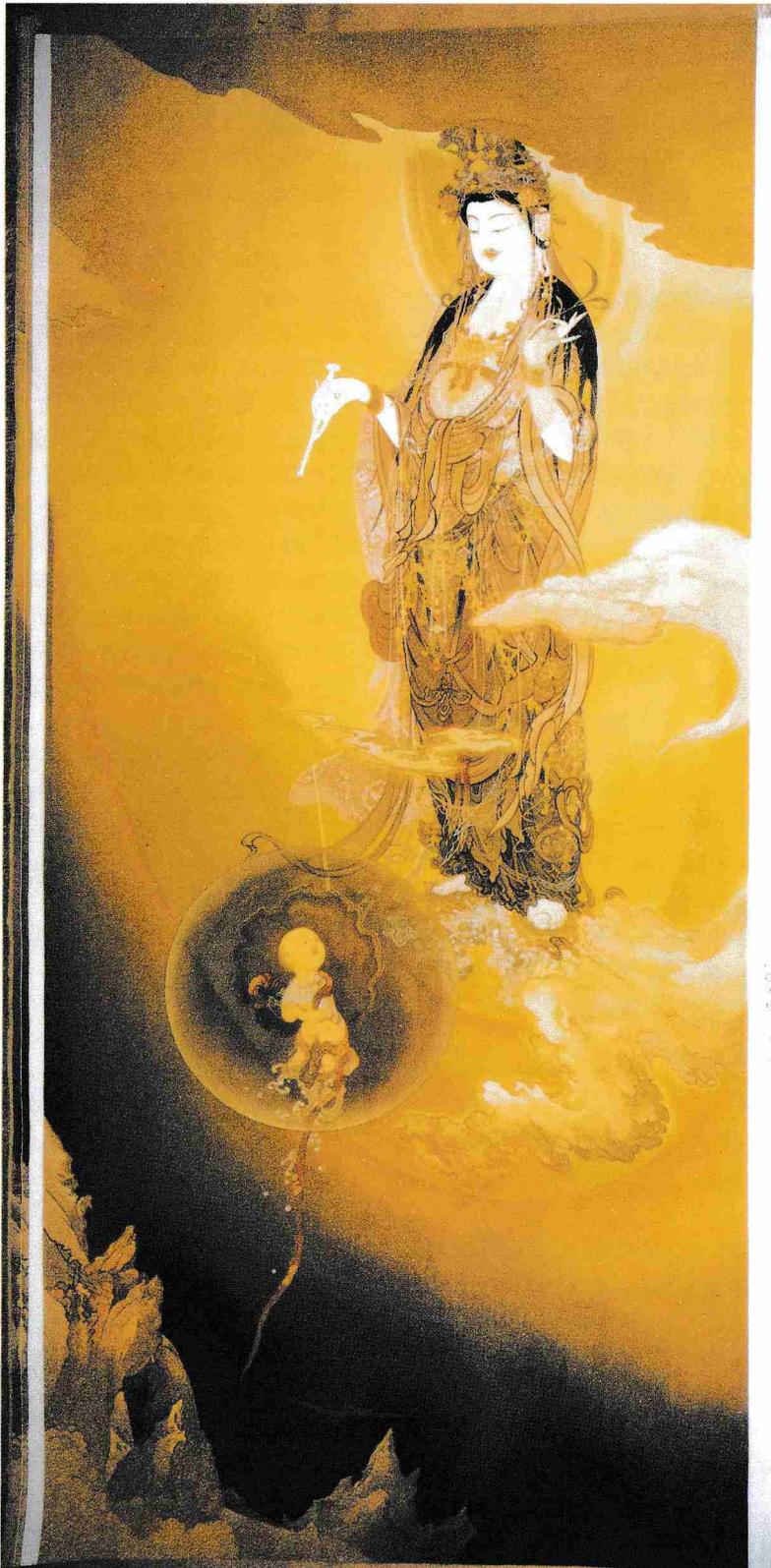


株式会社 川島織物  
代表取締役社長

SHOUO MINAMI

南 莊 郎

京都市上京区堀川一条上ル堅富田町432  
TEL.075-431-7881  
FAX.075-414-1741



綴れ織り「平成悲母観音像」

延暦3年(784年)に、奈良は平城京より長岡京へ都を移し、その又10年後、延暦18年に桓武天皇によって、京都に都が移されました。そして平安京建都の年より今日迄、実に1200年もの時代が流れております。

中国の都である洛陽や長安を模範にして建てられた都には、ご承知の通り、その思想にもとづいた計画的な立地が成されております。又、京都は盆地であるゆえに、夏の暑さや冬の寒さは共に厳しい反面、春や秋には美しく鮮やかな景色をひろげるのであります。

大陸から流れ来る文化も、四季が移りゆく毎に全く違った美しさをみせるこの都独特の感性により京都独自のものとなって開花致しました。そして、政治・文化における長い歴史を経た今日も、その伝統はしっかりと息づいております。

明治期においては、西陣織や陶芸などの伝統産業へ力が注がれ、又、多くの博覧会を催して都の再生に努め、明治28年に平安遷都1100年の催しを開く運びとなりました。現在、京都三大祭りの一つとされる、「時代祭」などは、この年に市民の手により始められた行事であります。

そして本年、平安建都1200年記念事業が、大きく展開されております。この年が、長きにわたる京都の歴史と進取の精神により、更なる大きな歩みを残すことを期待いたしております。

さてこの度、この平安建都1200年の記念事業の一環として、また、平成5年の川島織物創業150周年として製織された「平成悲母観音像」を、ここにご披露する運びとなりました。

この展覧会「甦る世界・悲母観音像」展は、その「平成悲母観音」を展覧し、また、その作品の基となった狩野芳崖画「悲母観音像」(1888年)、及び平安遷都1100年の記念事業として織製された、二代川島甚兵衛作「明治悲母観音像」(1895年)の諸史料も、併せて展示する事によって、19・20世紀、二つの世紀末に描かれ、織られた「悲母観音像」の表

る構造実験検討委員会方式で、解体予定の壁を利用したレンガ壁実大実験が行われました。その結果、昔調査した強度の約半分しかなかったということが分かりました。

### 構造補強

先ずこの赤レンガが関東大震災でなぜ倒壊しなかったか、てい練鉄工法という鉄の帯の交点の丸鋼とで全てのレンガ壁内に補強されているからと、分かりました。構造実験の結果より振動解析をして壁量の足りない所にRCの壁を背負わせたり、大型の四隅の部屋には、RCの柱・梁を現存するレンガ壁を吹き込んで壁に食い込ませて補強しました。岡田教授のお話によりますと、小断面であっても、地震時にレンガが外に突き出されてしまうのを拘束できるということです。床はRCにし、周囲のレンガ壁にはモルタルアンカーで鉄筋を定着させ、剛性を高めました。

### 工事中の構造補強、地震の時には肝を冷やした

工事中の構造補強をどうするか現場マンにとって一番の問題でした。新しく仮設の補強材を入れることは重病人をメスで切り裂くようなものです。そこで現存していた木梁とか鉄骨梁を平面的に有効に残したまま、周りの解体・躯体工事を進めていけばよいのではないかと。廊下や小部屋はボルトレンガ床が地震に相当抵抗してくれます。一番問題になる大部屋、両側の部屋を先行解体し、コンクリートを打設し、剛性が保たれた後に大部屋の解体に入りました。立体的にも屋上階に、昭和の改修で補強した鉄骨が入っていましたので、3階の床を打設するまで壊さないということを基本方針としました。レンガ壁の頂点に昭和の改修で打設された臥梁コンクリートが頼もしく思えました。必要な所だけ最小限解体するという方針で行いました。そうすることによって平面的な補強と立体的な補強と

で、工事中の地震対策を行いました。震度4の地震を工事中に、3・4回経験しましたが、地震よ治まってくれと、祈る気持ちでした。R階のコンクリートを打設して、やっとほっとしたのが偽ざる心境でした。

### 設計監修

創建時の図面は24枚ありました。詳細な図面は殆どありませんでした。外観写真も全体のはありましたが、詳細を決めていくには役に立ちそうにありません。誰が「ヨシ、コレデイコウ」と言えるのでしょうか。建設省も企業体も大成建設設計部も結論出せないでいました。そこで村松貞次郎・東京大学名誉教授、堀内正昭・昭和女子大学助教授に設計監修をお願いしました。

### 屋根復原

天然スレートの葺き方、1枚の大きさは創建時どうだったのか、設計監修で関係者が大きな虫メガネで竣工時の写真をそれこそ穴のあくほど見たものでした。飾り金物の規模はこの様に見えるスケッチを始めました。何度も見ていると、そのスケッチの様に見えるから不思議です。まるで、明治時代が語りかけてくれているような気がしました。

### 昭和の改修の先輩の撮った写真から復原

昭和の改修を行った建設省、大成建設の先輩と私も平成の関係者として懇談会を持ちましたが、写真が趣味であった前大成建設の比田井団象様が10数枚の写真を持って来られました。その内の1枚に、飾り金物がアップで写っていました。涙が出るほどの戦慄を覚えたものでした。本当にこの写真が無かったら、あの形の飾り金物は出現しなかったと改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

### 外壁復原

エンタシスの柱形の石、一文字の小叩

き仕上げ。現在日本でやれる人は70才代の現役を引退した方で、道具を磨いてばかりでちっとも進みません。そこで今回は中国産の石を韓国で加工しました。昔はダボ筋のみで固定されていたものを、今回は中心に穴をあけPC鋼棒を入れてアンボンド工法で緊張しました。「保存改修は何でもかんでも昔通りすることはない。現代の技術を使ってもいいんだ」と、村松先生に教えていただきました。昭和の改修で高さを2メートル低くしてありましたが、中央部には軒蛇腹が残っていました。この残っている石を樹脂型枠で取って、オリジナルな形を鋼製型枠で作りました。今回は予算の関係で、PC擬石でやるという設計になっていました。余り複雑な形を作ると脱型できないので、数個のピースに分けました。そうするとボルトで結合する作業が出てきます。ボルトの位置が少しでもずれると石に見えなくなってしまいます。凄い精度が要求されるんです。PC用の3次元、4次元の型枠を鉄で作る。それを作った会社ではカレンダーの裏に図面を書いていたのです。不思議でした。カレンダーの裏の図面からこれだけ精度の高いものが良くできるなあーと。

### 大臣食堂の復原

内部の写真で唯一残された大臣食堂、天井が一部しか見えていません。それをどう設計していくか、設計監修の関係者がよってたかって設計コンペみたいなものをやって決めたのが、今の図面です。この部屋は平成7年5月末竣工予定で、現在工事中です。

### おわりに

44ヶ月にわたって1人の重大災害も無く、無事に竣工できたことは、従事した作業員ひとり1人が、赤レンガの歴史の重みを感じ、それぞれに一生の思い出が残る仕事と励んでくれたたまものと深く感謝しています。

現上の差異を考究していこうとするものであります。

明治期日本画壇の巨匠・日本近代絵画の祖として知られる狩野芳崖は明治維新以降の急速な、国際化・西洋化が著しい日本において、絵画もまた、これまでの技法に影響を与えるであろう西洋画に対し、さまざまな激しい論議を行っておりました。そのような中で、芳崖はアーネスト・フェノロサ、岡倉天心、橋本雅邦らと日本画復興革新運動に活躍し、西洋画法を取り入れ乍ら、雄勁な筆法と、動的な表現で生氣あふれる作品を作り出し、明治21年（1888年）「悲母観音像」を完成させたのであります。

明治20年、ヨーロッパに渡り、フランスのゴブラン織りを研究した二代川島甚兵衛は、「西洋の織技を凌駕するのは、器用な日本人の指技に徹する綴れ織りしかない。」と、思い立ちました。彼も同じく、天心率いる日本画復興革新運動に深く共鳴し、狩野芳崖の最高傑作「悲母観音」を長い期間をかけて綴れ織りに仕立て上げました。この作品は、前述の通り平安遷都1100年記念事業として推進され、我が国の国威発揚の作品として制作されたものであります。又それは、明治28年の内国勸業博覧会に、工芸美術の精華として出陳され、妙技一等賞を受賞、御臨幸の明治天皇により、その場でお買い上げの栄を賜りました。高さ246cm／幅102cmの、その綴れの組成は、寸間（3.03cm四方）縦糸60本／横糸150越を数える、最も密度の高い組織でありまして、現在は東京国立博物館に御物として所蔵されております。

以来100年、平安建都1200年を迎えるにあたり、それを記念して、この度現代の技芸の粋を尽くして製織された「平成悲母観音像」は、それらの魂を甦らせようとするものであります。また、日本人の感性の転形期とも言うべきこの時代に相応しく、二代川島甚兵衛の<技>と魂に立ち返り、もう一度「手」の原点を見直す試みでもあります。



「明治悲母観音像」綴れ織り試織片（川島織物文化館所蔵）

明治期に製作されたものと、平成の今日、ここに製織されたものとを共に、同時に展覽しうのならば更に興味深いものがあると思いますが、今回は、これは明治のものの織り下絵等により比較して頂くより仕方がありません。

伝統的な綴れ織り技法についてはほとんど差異はありませんが、原画を基としての「織」での表現は、明治と平成の間に相当異なるところがあります。このことは私共にとって意味深いものでありま

すが、同時に一越、一越心を込めて織り上げられた「平成悲母観音像」から得られる精神性を、皆様がどの様にお汲み頂けるかが、私どもにとって更なる関心事であります。

19世紀末の、大作における優れた精神と技術力を経て、いかに、20世紀末／平成の綴れ織り「平成悲母観音像」が創生されたかを辿りながら、今後我が国の「織」の在り方を永遠に考究していくものであります。



建築設計家

ISAMU YOSHIDA

吉田 イサム

建築家吉田イサム事務所 所長  
仙台市青葉区国見ヶ丘3-16-10  
TEL.022-279-7051  
FAX.022-279-7066

## 休所、誕生記

古くからの生活行事に、すたれることのないものに墓参りがある。お盆が近づいて来ると、日頃ご先祖も、亡くなった親ですら忘れられていたのが思い出される。何としても墓参りだけはと、急に親思いのいい子になってしまう。しかし、墓地はいい気持ちはしない。どちらを見渡しても同じ形の墓標、しかも同じ黒みかけにせまい一坪をやたら、透垣までまわして立派に見せようとする。もう子供には世話になるまいと、生きていた内に自らの墓石を建立する人も多い。表面に赤い名前が入っているのがそれだ。最近ではどちらのお寺さんも、墓地を改変している。近ごろの都市計画街路を通す様に

真直ぐ十文字にした様な道路をつけ、整理するや、たちまち墓地は2倍くらいもふくれ上り、宅地を売り出すのと同じ様に1コマいくらで、お寺も檀家総代も皮算用する。さて、それで何をするか。門を改築、本堂までも手をかけたいのだが墓地の売却分では間に合わない。買った人にまたしわ寄せが来る。“御寄附願います”だ。

このあたりの話を家内の実家から聞かされる、だが――。

年一度の墓参りの折、丁度墓地を改変しようとしている所だったので、思い切って住職に言ってみた。

“墓地の数をふやすのもいいが是非ここに来てお参りしてよかったと思う雰囲気を作れませんかねえ”、墓参りも表面は

先祖の供養、一年一度のお迎え、と言葉はいいが、実は殆ど義理で来ている様なもので、線香をあげると、足早に帰って行く、おそなえの菓子も下げて食べる所、ゆっくり腰を落ちつけ、木々を眺めながら、亡くなった人の思い出が語れる余裕などあればよいのに、と住職に話しかけると、光った頭をなでながら“その通りじゃ”と言ってくれた。“じゃあ、墓地を増やすのを止めて、休み所、あづまやをつくり、休憩出来る様に、そこには椅子に座って向うを見れば住職の暖い言葉などさざみ込んだ碑などあれば有りがたいことでしょう”――

到頭私はここに小さな休所を設計することになった。800の檀家が胸のうちで願っていたものを――。





建築家  
TOSHIO HONMA  
**本間 利雄**  
㈱本間利雄設計事務所 代表取締役  
山形県小川町4-13-12  
TEL. 0236-41-7711 (代)

## 交流の風景づくり —川西町フレンドリープラザの開館

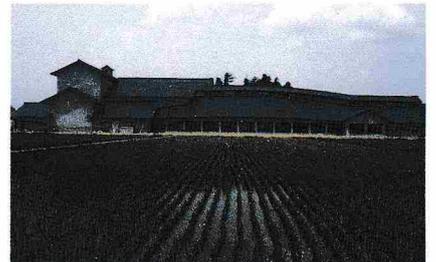
自治省のリーディング・プロジェクトの支援を受け、地域間交流の活性化を目的とした演劇ホールと図書館の複合施設「川西町フレンドリープラザ」が、この8月完成した。川西町は人口1万1千人余、山形県の南部に位置する稲作中心の農業地帯であり、作家の井上ひさしさんの生まれ故郷である。

「故郷で自分の芝居が打てる小さな小屋があれば」との夢を抱いていた井上さんを訪ねたこともあった。それから10年という歳月が町の方々や井上さん自身の熱い思いを集積させ、熟成させた。井上さんの蔵書による「遅筆堂文庫」の存在もあって、発想された建物である。そこに建築設計を通して関わったことは私にとっても大きな喜びである。

プラザの敷地は中心市街地となる小松の東側にあたり、隣接地には四世紀後半の築造とされる県内唯一の前方後円墳がある。敷地の南側には田園と、遙か彼方に吾妻の山々が眺望される。そんな風景のなかに交流のための魅力的な空間を付加することができればと、建築の発想を進めた。

季節風の障壁となるように量感のある演劇ホールを西側に置き、交流空間（ロビー）、図書館と東に漸次的に小さくなる空間を繋いでいる。それらを並列する古墳に呼応させるとともに、周辺の丘陵を想起させるような膨らみと流れを外観に組み入れた。それはちょうど、屋敷林をもつ小さな集落にある連鎖型民家（当地特有の中門造り民家を中心に蔵や納屋が繋がる民家形態）のようでもある。

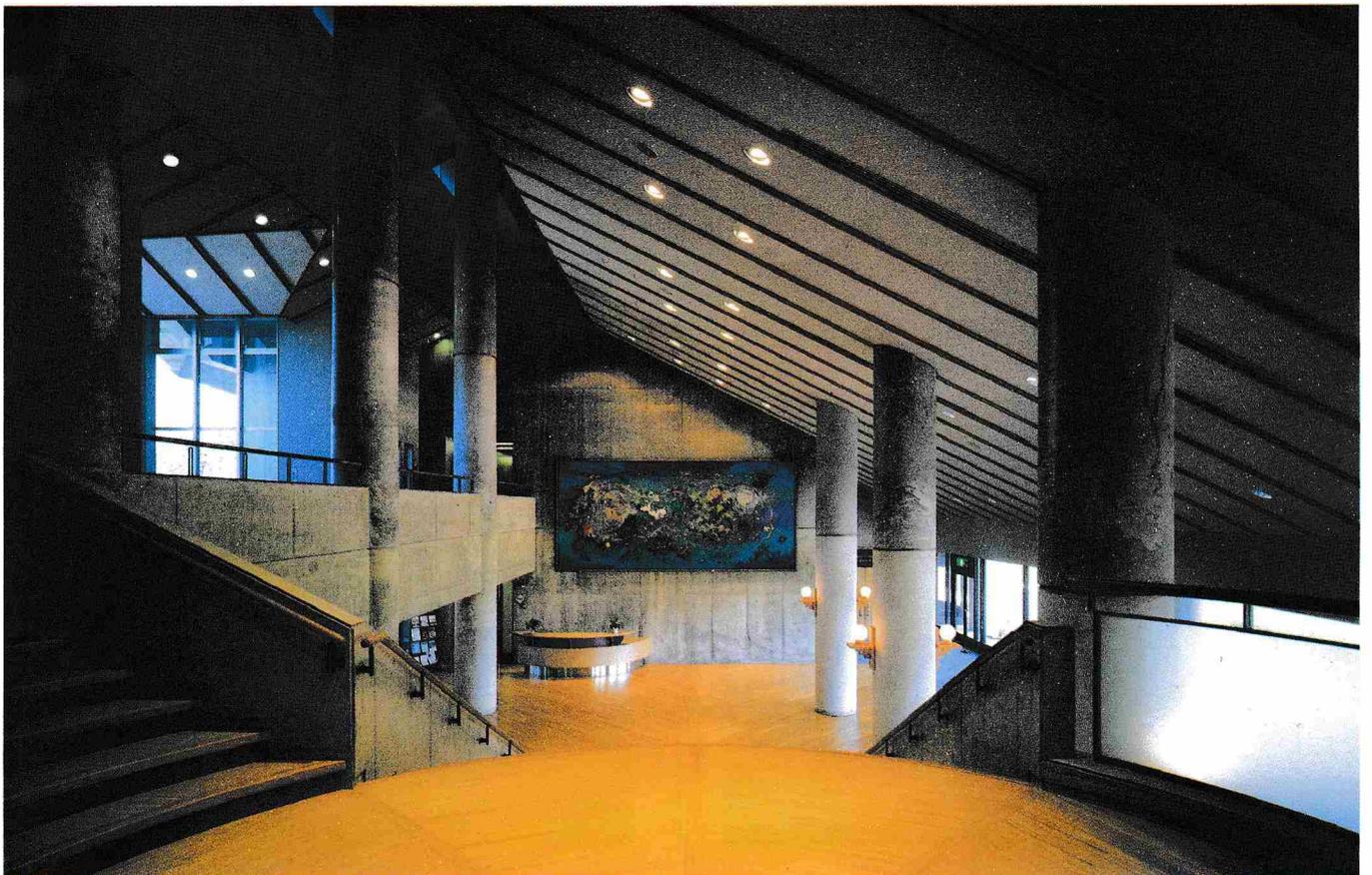
ロビーには、町出身の黒沢悟郎さんの



川西町フレンドリープラザ外観

壁画「古墳のある町のファンタジー」が彩りを添え、対峙する階段踊り場におかれた土谷武さんの彫刻「蝶」が全体を引き締めており、心地よい緊張感を空間に漂わせている。

風と祭と交流をイメージした緞帳原画を採用していただいたり、道路脇に幟を掲げるなど、交流の場の雰囲気づくりのための私共の提案を汲み取っていただけただことも、特筆すべきことであろうか。



川西町フレンドリープラザ ロビー階段



彫刻家

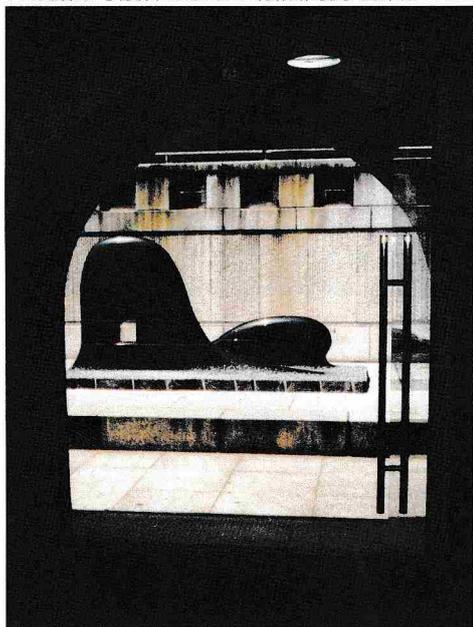
SHIROU HAYAMI

速水史朗

香川県多度郡多度津町京町6-10  
TEL. 0877-33-3121

国立科学博物館(昭和5年建築の建造物)の内装工事一部完成に際してB1玄関両サイドの石階段にかこわれた空間へ彫刻を設置した。立派な昭和初期の石造建築の空間に程良く新しい力を植えつける作業であった。

目立ち過ぎず、邪魔にならず、さりとして自己主張も必要である。この館の守護神のように階段両側を飾ることとした。



**Space & Earth**

設置場所：  
東京都上野公園内  
国立科学博物館  
地下1階玄関両サイド  
1500×3200×1000(mm)  
黒ミカゲ石



壁(画)作家

HIROSHI MATSUHASHI

松橋博

東京都台東区谷中2-4-2  
TEL. 03-3821-1490

この地域(幕張本郷公民館)は、昔は海辺が広がり、海風が吹き、潮のかほりがするとてもどかな風景でした。そして、美しい砂浜があたり一面キラキラ輝やしていました。そこで幕張の砂を使い、かつての美しい“海の記憶”を定着したく考えました。



**「海の記憶」**

設置場所：千葉県  
幕張本郷公民館  
3m×2m  
作品の撮影者：清水栄



画壁作家

ARI SONO

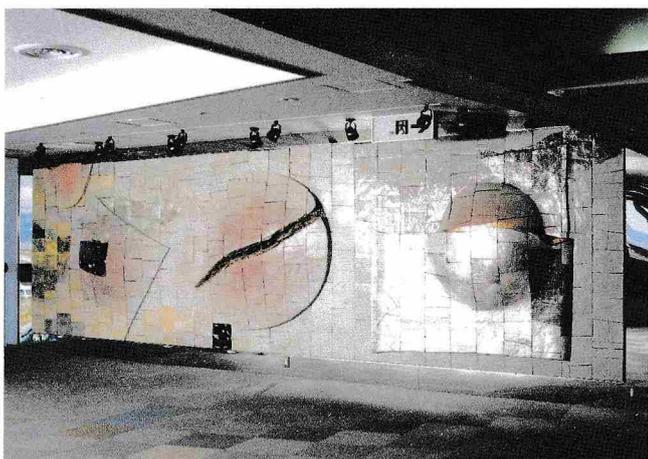
園阿莉

東京都町田市玉川学園1-24-26  
TEL. 0427-25-1971

女友達は女性にとっても男性にとってもいいものです。女性のもつ豊かさを表現しました。

**「女友達」**

設置場所：豊橋市女性センターロビー  
2400H×8500W(mm)



陶アトリエ・モダンアート

SHINGO KOZUKA

高塚信吾

東京都港区虎ノ門3-22-7 ニューハイツ芝公園1004  
TEL. 03-5401-0151

感性豊かな美しい街づくり運動は、市民と市が互いに尊重、信頼から生まれ、成長し、訪れる人に感動を与える。

“人と人とのあたたかい触れ合いは、美しい街から”をテーマに市役所前庭にモニュメントを制作。

**「融合と発展」**

設置場所：埼玉県戸田市  
4000×3000×3000H(mm)



※ 先号に引きつづき、多数の応募がございました。掲載できなかった作品は順次掲載させていただきます。皆様ふるってご参加下さい。

第63回 1994年7月15日

ゲスト アーティスト



NAOYA SAKAGAMI

坂上直哉氏

調布市西つつじヶ丘2-18-8  
SAKAビル301  
TEL. 03-3308-8418  
FAX. 03-3308-0082

## 「一つのテーブルから考える明日の風景」ボーダーを越えて

7月15日、むせ返るような暑い1日でした。この記録破りの初夏の夕刻、定員をオーバーし汗だくの会場で熱心にトークに参加していただきありがとうございました。



トークの準備中はパブリックアートの考え方等について語れたらと考えていましたが、やはり作家である以上今まで制作した作品のそれぞれの場における考え方及び、制作技法をスライドを映写しながら説明することにしました。特にこの25年間行ってきたステンレスへの様々な表面処理技術を個々の作品を通してかなり詳しく説明しましたが、これは絵の世界で言えば絵具の話ばかりしたようなものです。油絵具は15世紀の初期ヤン・ファン・エイク以下フランドル派の手により当時の最先端のサイエンスをもって開発されましたが、当初ステンレスで障壁画を描きたいと思っていた私にとってステンレスへの表面処理技術はそれだったように思います。表現技術はその時代のサイエンスと思想のクロスから生まれます。



個々の作品についての考え方を話しましたが、主旨をまとめると次の三つになると考えています。

1. アートは機能しなければならない
2. 産業革命による社会構造の変化により生じたアートは美術史上例外的な形式と言える
3. アートの構造は個も包含する場に存る  
この三つについて少し補足すると、アートは何万年もの先史からの人の営みのなかでは主に部族や国にとって祭礼、儀礼を司る道具として創造され機能してきたと考えられます。現在文化遺産として残された多くの“物” システィナ礼拝堂天井壁画、ルクソール神殿、茶道具、浮世絵、など多くの“物”が、神事、作法、遊び事など“事”のためにあったように



大阪 四天王寺講堂天井壁画「映し曼陀羅」

見えます。

2におけるアートとは歴史は包丁で切るようには区切れませんが、美術史上およそセザンヌからデュシャンまでとそしてその傘の下にいるモダンアートを指し示します。

この時代の際立った特徴はアーティスト個々が自らの様式を完成するしか表現の方法が無く……アートの発想される条件が個人的なものに止まりそこから生まれる様式は社会に対して翻訳不可能なためその個人の属する共同体とコミュニケーションを図れない。このように言えると思います。

特に私達はパブリックアートを語るとき、この一世代前のわずか60年程続いた例外的な美術様式からコンテンポラリーな創造を判断しすぎるように見えます。有史以来4000年に渡るアートの視点からの評価が正しいとは言えませんがいくらか歪みの少ない画像が結ぶそうです。

今、メディアによるコミュニケーションの方法が革命的と言える程変化しつつあります。これは都市や田園の概念もこのままではいられません、そこに想定され

るアート風景は産業革命以前の様式からより深い示唆を受けるような気がしますがこの点を留意しつつパブリックアートについて考えて行きたいと思っております。



新羽田空港到着ロビーのアートワークは作家個人の思い入れを超えて、多様な“係わり”の中で初めて成立し、公共空間に設置されるオブジェとして様々な問題をなげかけてくれました。

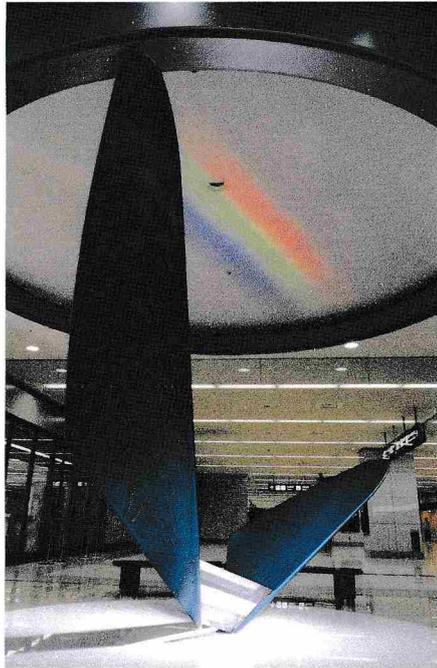
私のオブジェの提案を“かたち”にするためには何色もの絵の具がいるように多種多様な表現技術が必要でした。新しい技術を求めようとする、それは今企業の中にあり企業とのコラボレーションが必要となります。日新製鋼グループのスパッタリング、レインボー発色、特殊エンボス、パンチング技術、日立製作所による虹発生機の回析格子、オハラによる光学プリズム他松下電工、等様々な企業とのコラボレーションから作品が姿を表しました。これはすでに作家個人がなし得る技でなくプロデューサー、コーディネーターの活躍に負うところが多いと思います。

第64回 1994年9月16日

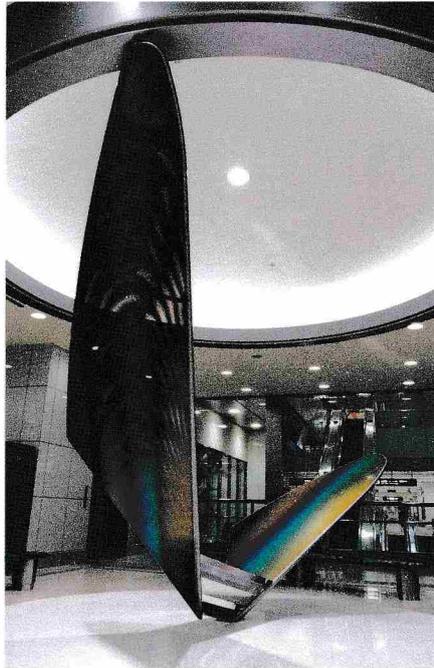
ゲスト 造形作家



KYOKO IBE  
伊部京子氏  
樹シオン社長  
向日市寺戸町東ノ段9-10  
TEL. 075-933-8926  
FAX. 075-933-8928



新羽田ターミナルビル「虹にむかって」



「虹にそまって」

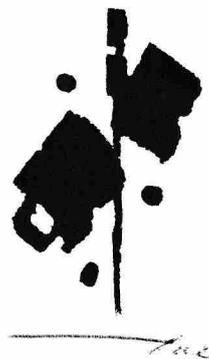
しかし表現技術に比べ“事”についてはほとんど何もしていないに等しいと言えます。翼が「虹にむかって」そして「虹にそまって」還って来るその間に詩、物語、虹の音、等音や光の作家との発想の共有について語り合いましたがどれも実現せず今に至っています。設計の速い段階でここで得られたストーリーなり脚本なりが建築空間に少しでもフィードバックできるシステムがあればとおもいます。

公共空間に置かれたオブジェは設置して終わりではなく、その場を豊かにしつつ人々と生き続けなければ意味を持ちません。羽田の二つの翼たちも本当の命を吹き込めるのはこれからだと考えています。



aacaの新しさはボーダーを超えた人々の集まりだからです。調査研究委員の一人として更にaacaの枠にこだわらず、時代の担い手をゲストにパブリックアートについて活発なトークが出来たらと考えています。

最後に事業委員会、事務局、調査研究委員の皆様暑いなか有難うございました。

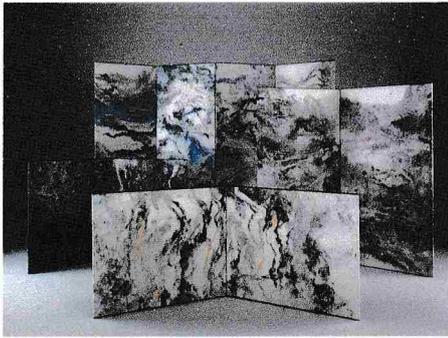


トーク風景

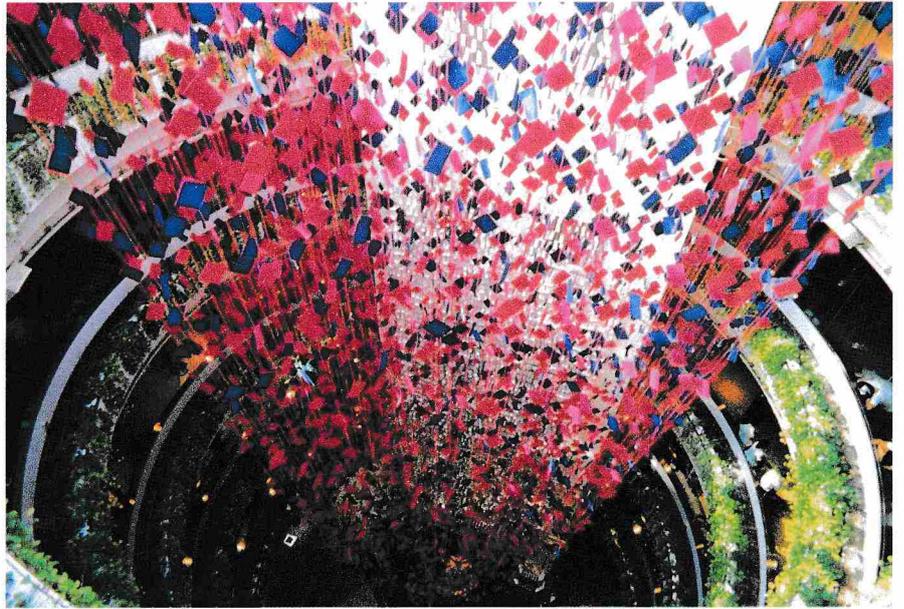
BC2世紀頃に中国でつくられるようになった紙の製法が造紙法として日本に伝えられたのは7世紀はじめであった。その後急速に日本各地に普及し、独特の日本式改良が加えられ、9世紀はじめには、今日の流し漉きの原型が完成した様である。

中国語の造紙は英語では paper making に該当する。漉はろくとも読まれ、その他にすくに当てはまる漢字には、梳、鋤、透く、掬く、抄くなどがある。日本式改良がなされる中で造紙は、紙漉きとよばれるようになっていった。すくはいずれもが、時間と時間と間合いがあるか、ものどもの間かくにかかわった言葉であり、通底する意味合いを持っている。時あたかも平安時代、貴族文化華やかかなりし頃である。唐風の消化により日本風の文化がはじめて花開いた担い手の一つが和紙であったとわたしは思う。源氏物語や枕草子には和紙にまつわる様々な記述が残されている。貴族たちはクライアントとして、またパトロンとして、様々な高級な要求をすることにより紙漉きを育てていった様である。和紙についての見識や趣味の良さは、教養を誇示する有力な手段であったともいえる。屏風やふすま障子が貴族の住宅に流行したのもこの時代であった。これは薄くて丈夫な紙をつくれる流し漉きの開発によりはじめて可能になったことである。貴族の要求水準の高さと工人たちの心意気が技術改良を可能にし、その新技術が新用途を生み出した訳である。

紙づくりに不可欠で最も重要なファクターは水である。紙づくりとは、人が木の繊維を水を媒介にしてシートへ換えてゆくプロセスを云う。人の力=エネルギーはいつも水を介在させて繊維へと伝えられ、最終水と縁が切れて乾燥された時にはじめて木は紙と化する。わたしがいつまでもこだわり続けるのはこのプロセスである。紙は漉いてつくるもの。この漉という行為を、例えば描くとか彫るとかの行為と全く同じ意味合いで芸術表現の手段として作品を生み出そうと試み続けている。



屏風「コスモシリーズ」より '93



「朱夏」'92 仙台141ビル



「オーロラオーキッドファンタジー」'91花博 咲くやこのはな館

## (社)日本建築美術工芸協会第6回 設立記念会 +第4回協会賞表彰式並びに懇親 交流会

- 日時：1994年12月7日(月)  
午後5時30分～午後8時
- 場所：建築開館1階ホール  
(東京都港区芝5丁目26番20号建築会館)
- 会場は、午後5時  
総合司会 事業委員長 (倉本真弘)
- ◎協会設立記念会 午後5時30分より
- 挨拶  
会長 芦原義信
- 会勢報告  
会員増強委員長 古畠誠一
- 来賓ご挨拶  
文化庁長官 遠山敦子 殿
- ◎日本建築美術工芸協会賞受賞式  
午後6時より
- 賞選考に当たって  
挨拶 賞選考委員長 内井昭蔵
- 賞の授与(表彰)
- 受賞者挨拶・記念写真  
☆休憩(会場準備のため)  
午後6時30分～ドリンクサービス
- ◎懇親・交流会 午後6時45分より
- 開会挨拶
- アトラクション(予定)  
午後6時50分～7時20分
- 乾杯  
閉会宣言  
散会 午後8時

## 第1回～第3回の(社)日本建築美術工芸協会賞は以下の通りです。

(人名等敬称略)

- 第1回(1991年度)  
表彰式1991年11月22日(金)建築会館ホール  
(社)日本建築美術工芸協会賞  
東京都多摩動物公園昆虫生態園昆虫ホール  
(東京都日野市程久久保7-1-1)  
(大理石モザイク壁画、アナモルフォーシス)  
受賞者：株式会社 日本設計 + 上 哲男  
(社)日本建築美術工芸協会特別賞  
兼六園周辺文化ゾーン  
(石川県金沢市広坂～出羽町)  
受賞者：石川県知事 中西 陽一
- 第2回(1992年度)  
表彰式1992年11月20日(金)建築会館ホール  
(社)日本建築美術工芸協会賞  
(2点)  
1.能登島カルチャーパーク  
受賞者：石川県知事 中西 陽一  
株式会社 網野毅曠建築事務所
- 1.北御牧村芸術むら公園結いの高欄道  
受賞者：長野県北御牧村町 小山 治  
保科豊巳・ベルグ環境設計
- 第3回(1993年度)  
表彰式1993年12月22日(水)建築会館ホール  
(社)日本建築美術工芸協会賞  
(2点)  
1.鹿児島市 みなと大通り公園公園モニ  
ュメント(悠雄)並びに一連の彫刻作品  
受賞者：速水史朗
- 1.Villa Cypress II  
受賞者：木村誠之助

## 建畠覚造展のお知らせ

1994年10月3日(月)～11月11日(金)  
am11:00～pm7:00 (日祭休廊)  
NORIE GALLERY  
東京都中央区銀座1-16-6 鈴常ビル3F  
TEL・FAX 03-3562-0604

## aaca講演会のお知らせ

「公共空間とアート」  
講師：Mrs.ジョーン・モンデル  
(モンデル米国大使夫人)

**aaca講演会**  
**公共空間とアート**  
講師 Mrs.ジョーン・モンデル (モンデル米国大使夫人)

日時 10月28日(金) 午後5時  
場所 建築会館 1階ホール

主催 社団法人 日本建築美術工芸協会  
後援 米国大使館・港区役所・北日本建築学会



KEIICHIRO MIKI  
三木 経一郎

㈱トヨコ理研 技術管理本部  
〒102 東京都千代田区三番町8-7  
第25興和ビル  
TEL.03-3221-3320  
FAX.03-3221-3322

今年が第1回目のAACA'94サマーフェスティバルが、まだ残暑厳しき建築会館で8月26日(金)、約200人の参加で開催されました。

四国徳島の夏の一大イベントである阿波踊りと、情熱の国イタリアのカンツォーネ。この一見不自然な東西異文化融合のジョイント・パフォーマンスを実現できるのがAACAとの企画方針が事業委員会で決定され、徳島本場の阿波踊り「にわか連」よりも、にわか作りの「AACA連」でありましたが、さすがAACA、ぶっつけ本番にしては貫禄十分の芦原会長をはじめ、AACA会員及び台湾より飛び入り参加の建築家他参加者全員の一人一人が個性を発揮した踊りで会場を圧倒、全員踊る阿呆に見る阿呆、平素はやゝ固い雰囲気のある建築会館もこの日ばかりは、猛暑を吹き飛ばす賑わいでした。

汗と熱気の休憩の一時、仙台在住の建築家吉田イサム会員がプロ顔負けの白いタクシー姿でのカンツォーネに阿波踊り姿の参加者一同、うっとりとそのテノールの美声に聞きほれました。AACAらしく芦原会長より即席阿波踊り団扇の花束が贈呈されました。

当日の様子は8月30日(火)の建設通信に芦原会長の衣裳姿の写真と、「AACAは文武両道」とのご挨拶が紹介されました。

今回の初のイベントの企画に当り、適切なアドバイスを戴いた、徳島出身の玉見広報委員長及び裏方でご苦勞をおかけした、吉田夫人と事務局の皆様には事業委員一同、厚くお礼申し上げます。

最後に徳島弁で「来年も踊らんでかい」。



発行：社団法人日本建築美術工芸協会  
Phone 03-3457-7998  
Fax 03-3457-1598  
〒108 東京都港区芝5-26-20  
建築会館6F

振替：東京 1-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会 広報委員会  
広報担当理事 柳澤孝彦  
玉見 満 (委員長)、大多了介、北村孝昭  
坂上みつ子、崎山小夜子、高部多恵子  
富田俊男

制作協力：(株)SP建材エージェンシー

平安建都1200年記念

# 「甦る世界・悲母観音」展

〈織〉の伝統と創生

主催Ⅱ(財)工芸学会・麻布美術工芸館／(財)平安建都1200年記念協会／川島織物文化館  
後援Ⅱ文化庁／(財)日本建築美術工芸協会／日本服飾学会  
協賛Ⅱ東急ファミリークラブ

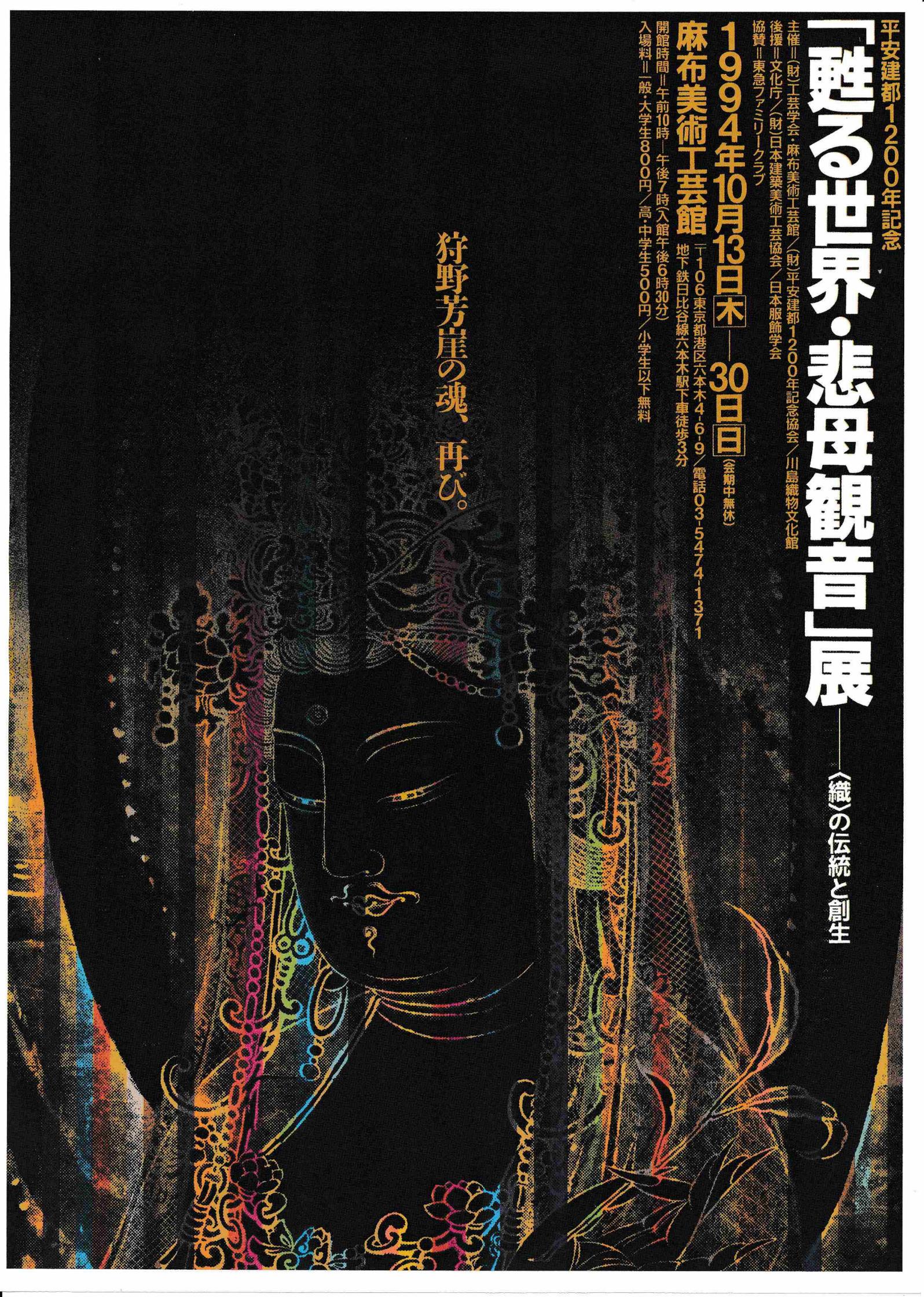
1994年10月13日(木) — 30日(日) (会期中無休)

麻布美術工芸館 〒106 東京都港区六本木4-6-9 / 電話03-5474-1371  
地下鉄日比谷線六本木駅下車徒歩3分

開館時間Ⅱ午前10時—午後7時(入館午後6時30分)

入場料Ⅱ一般・大学生800円／高中学生500円／小学生以下無料

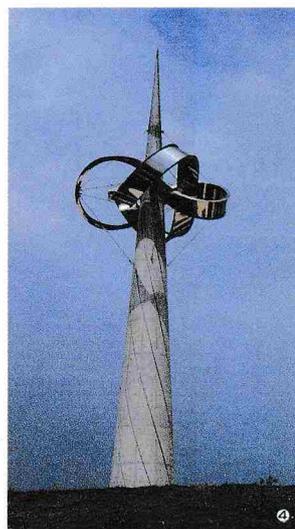
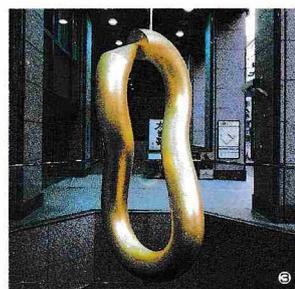
狩野芳崖の魂、再び。



# Art & Technology

人と空間とのコミュニケーション。

**Tajima**  
ARCHITECTURAL METALS



〈田島〉は、創業以来75有余年。  
建築の内外空間に、建材のみならず、  
モニュメントやレリーフなど金属製品を造りつづけています。  
その永い伝統をふまえた価値ある技術は  
金属アートやクラフトの分野にも生かされています。

- ① 八尾市平和モニュメント「光の道しるべ」 作者：山本成男  
② 横浜人形の家  
③ 福岡ダイヤモンドビルモニュメント 作者：藤オーケストラ・三菱地所株  
④ アジア太平洋諸国友好平和モニュメント 作者：沖繩県・設計同人GAN

**株式会社 田島順三製作所**

本社 〒100 東京都千代田区永田町2-14-3 赤坂東急ビル ☎(03)3581-6296

●東京(03)3581-6291 ●大阪(06)203-4151 ●仙台(022)225-5844 ●横浜(045)212-3281 ●名古屋(052)571-5231 ●福岡(092)771-7461 ●四国(0878)62-9541 ●デザイン部(03)5689-0878  
●特販事業部(03)3260-9021 ●海外部(03)3580-0021 ●大阪南港ショールーム(06)615-5246 ●海外事業所：ロサンゼルス・タイペイ・ホンコン・シンガポール・クアラルンプール・マニラ・ソウル



TERRA COTTA



東京 丸の内野村ビル  
 設計/大成建設設計部 施工/大成建設・清水建設・野村建設・長谷工コーポレーション・白石建設JV  
 施工法/大半PC板後付一部現場張り

旧建築の復元に、他部位との組み合わせによる新しい建築表現の実現に、数々の実績を重ねている大塚オーミ陶業のテラコッタ。私たちの開発した新世代のテラコッタは、現代の建築基準をクリアした高品位の物性と高層建築にも対応できる高度な施工法とを兼ね備えています。

【大塚オーミ陶業のテラコッタの主な特長】 ①専門製造ラインから生み出される高品位テラコッタ ②高層外壁での使用も可能 ③旧ビルのテラコッタの再創造から新しいデザインのテラコッタまで。建築家のさまざまな要望に対応 ④実績に裏付けられた施工法を完備 ⑤デザイン協力から図面作製・施工まで幅広く対応

テラコッタ

OT CERAMIC  
 RUMOR SPACE COMMUNICATION

大型陶板  
 大塚オーミ陶業  
 ●OTセラミック ●テラコッタ ●美術陶板

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 大塚オーミ陶業株式会社  
 TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112  
 E-MAIL: info@ot-ceramic.com